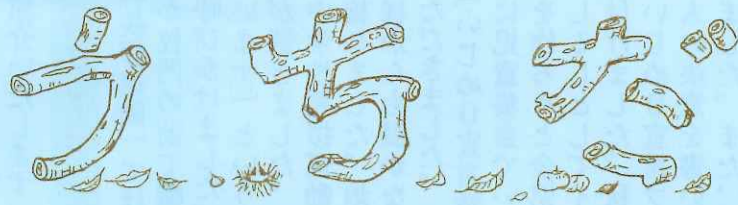


みんなで創ろう 安心した街づくり



発行：内田小学校区小域福祉ネットワーク

安否確認

六年前の平成二十三年三月十一日、内田地区でも被ったあの東日本大震災を凌ぐとも言われている。首都直下型地震に、もしも襲われたら、と思うだけで恐怖に身震いします。しかし、向こう三十年の間にこの恐れは七割の確率で起るだろうという分析に「否」とするアナウンスはありません。

しかし、起こってしまったら、内田町会の「向こう三軒両隣（近所）の仕組み」が、内田町会の人々の活動によって、次の様に「安否確認」が行なわれます。

その動きを想定してみますと、「地震が止んだら」、家族の安否を確認し確認できたならば、次は、あなたが高齢者世帯へ「安否確認をする人」であれば、行く道の安全に気を配りつつ、速やかにその自宅へ急ぐ。「大丈夫かい」と面会し、その様子を町会長へ連絡する。そして、無事が確認できたならば、近所の人達と一緒に「指定された一時（いつとき）避難所」へ向うように告げる。

一方、「高齢者世帯への安否確認をする人」ではない多くの人達は、家族と近所の人と一緒に、安全に気配りしつつ「指定一時（いつとき）避難所」へ、取り敢えず避難する。

一時（いつとき）避難所では、誰がまだ来ていないかが、時々把握できるような手筈になっており、そこ

大災害時における「安否確認」 （向こう三軒両隣の仕組み）

内田小学校区小域福祉ネットワーク

会長 小出完爾



に居る連絡者は、まだ来ていない人への連絡に心がけるなど、「速やかな確認」に努めるものです。それは大混乱の中にあっても「安否確認」は最重要であることに他なりません。

「向こう三軒両隣（近所）の仕組み」は、そのためのツールであり、「速やかな安否確認」の実現にあります。



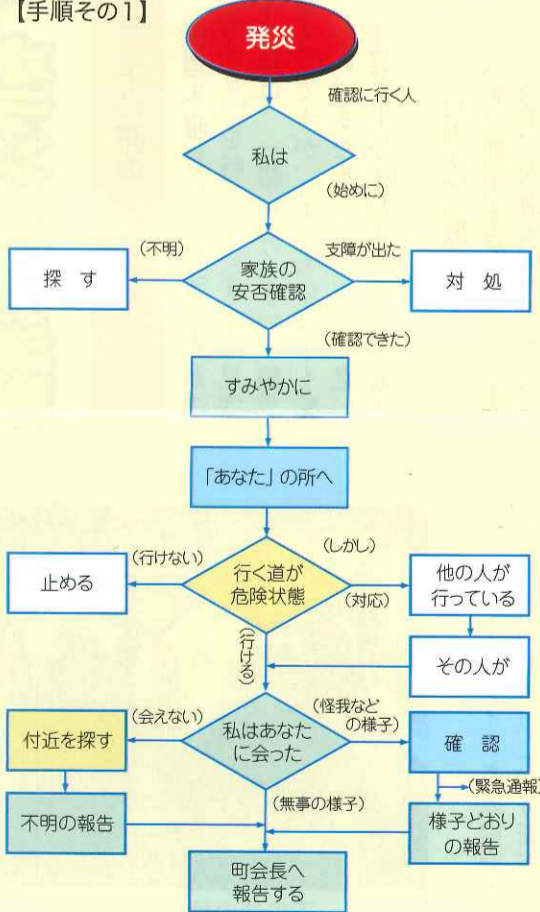
会議の様子



安否確認手順

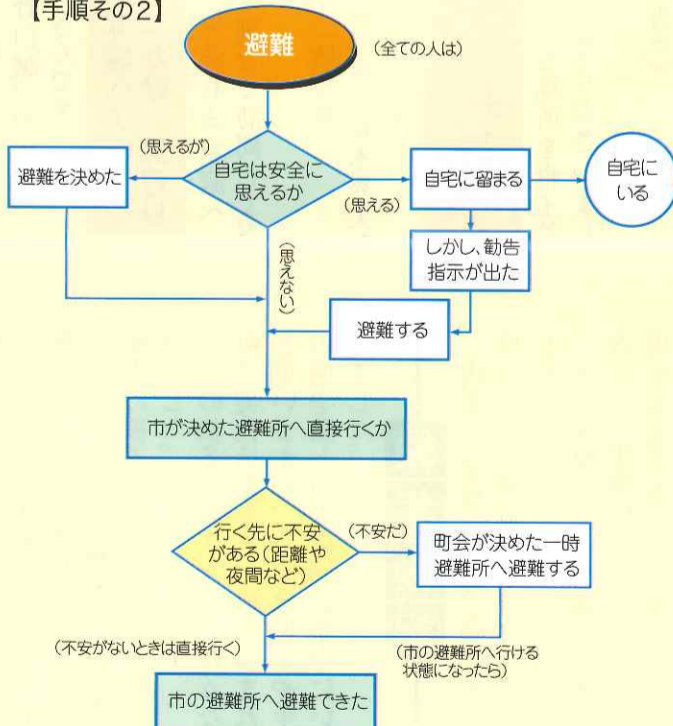
私＝確認する人
あなた＝確認を受ける人（75歳以上の独居日中独居世帯の人）

【手順その1】



災害(大地震・台風・大雨など)を被ったら
「向こう三軒両隣(近所)の仕組み」でまず安否確認しましょう。

【手順その2】



その要点としては？

- ① 自分はこの「一時（いつとき）避難所」に行くことになっているのか。
- ② 自分は誰の安否確認に向かうのか。
- ③ 一時（いつとき）避難の後は、どう行動するか。

④ どう行動するかについては、黄色の厚紙の「行動フローチャート」で確かめておくこと。

この「向こう三軒両隣（近所）の仕組み」は、以上のような結果をもたらすものですが、その基本のところは、「支え合い」の暮らし方がなくてはならないように思います。

一流をめざして

「やさしくかしこくたくましく」

内田小学校 校長 佐久間義雄

平成二十八年度は内田小学校のテーマを、「一流をめざしてーやさしくかしこくたくましくー」として教育活動に取り組んでまいりました。その一端を紹介いたします。

「やさしく」

「挨拶運動」では、高学年の児童が校門の前で幟を持って挨拶を呼びかけました。「おはようございます」という明るく元気な声が響きました。南総加茂地区小中学校挨拶運動とも連携して実施しました。地域や保護者の皆様からも温かな声かけをしていただきました。

「いじめ0宣言活動」では、四月に児童集会でいじめのない学校を作ろうと全児童で誓い、そのしるしとしてイエローリボンを付けました。秋には、各学級でいじめ0宣言フラッグに一人一人の決意を書いて教室に掲示しました。また、生活アンケートや教育相談週間を実施しました。

「道徳」では、「わたしたちの道徳」等をもとに児童の意見を交流する中で考える授業を計画的に進めました。「家庭教育学級」(市原市教育委員会一年間指定)では、「内田の夏祭り」「親子バス研修旅行(佐原成田方面)」「バザー・餅つき体験」「親子のボードウォッチング」「フラワーアレンジメント」等をPTA役員の皆様を中心に

企画・運営していただきました。

「かしこく」

「研究学校」(第一部門教科学力国語・市原市教育委員会二年間指定)としての研究をスタートしました。講師を招いての模範授業を、二・四・六年生で実施しました。その後、全学年で研究授業を実施して大学の研究者から指導をいただきました。授業改善を進めています。

「市原学習サポーター」の活用をしました。週に三回、三年生(五年生を中心に算数の授業に市原学習サポーターが入って個別指導をしました。その時は二人の指導者で一つの学級を指導することになります。

「サマースクール」を夏休みに実施しました。地域の元教員の皆様と教職員を講師として算数を中心に学習指導をしました。「フオローアアップ学習」では、児童の希望者を募り、教職員が放課後に学習指導する期間を設定して取り組みました。

「たくましく」

「内田地区大運動会」では、児童が競技や集団演技で練習の成果を発揮してくれました。また、地域・家庭の皆様の協力や声援が児童の頑張りにつながりました。

「諏訪の子相撲大会」では、立派な土俵の上で子供たちの力一杯の名勝負が繰り広げられました。

「マラソン大会」では、こつこつと計画的に練習に取り組んで自分の記録を更新する子供たちが多かったです。

「部活動」では、ミニバスケットボール、サッカー、水泳、陸上、音楽に取り組みました。それぞれの競技や発表で練習の成果を発揮して活躍してくれました。



内田の夏祭り

地域の皆様の支えに感謝

一年間を通して、内田小学校区小域福祉ネットワークの皆様をはじめ、地域・家庭・関係機関の皆様には御支援・御協力をいただきましたことを厚く感謝申し上げます。子供たちは様々な場面で、皆様からの温かな励ましの言葉を自信と力に変え、力を発揮できました。

どの子も挑戦と努力を続けて一人一人確実に成長しました。今後も、地域の未来である子供たちのために内田小学校へ御支援・御協力をいただけますようお願い申し上げます。

地域のボランティア活動

一、下校時の見守り

毎週木曜日に下校する児童の「見守り」を行っています。見守りの形は、一緒に歩くという簡単なものですが、子どもたちの様子も感じられ、また歩く早さなど、老いの現実も十分味わう時間でもあります。

《見守った方々》(敬称略)

関氏彰、征矢千歳、石塚礼子、小出裕美、内海勇、内海敏子、丸山梅子、館上敏一、武内忠一、立吉光夫、野口誠、内海茂、小出完爾の皆さんです。

二、高齢独居家庭への声かけ、見守り

見守りを希望される家庭へ、一ヶ月に二回の割合で訪問してまいります。

《見守った方々》(敬称略)
米山弘、多賀一郎、鈴木秀夫、小出完爾の皆さんです。

三、通学路の美化ボランティア

今年度も、様々な場所を自主的に美化活動をしてくださいました。

《取り組まれた方々》

・国道四〇九号線の歩道を牛久ら、真ヶ谷入口付近までの歩道のこびり付いた土や草を除去されました。このボランティアは宿の小関茂夫さんによるものです。

・国道四〇九号線米沢地先の歩道の雑草は、通学する子どもや、利用する方々の困るところでした。ここを米沢町会長の安藤昭夫さんが数度にわたって刈り払って



下校時の見守りの様子

下されました。

・ウグイスラインを原田交差点から江子田交差点に向う新石川橋付近から江子田に向う道路を登り勾配付近までの長い距離を、貝瀬雄二さんと貝瀬正明さんによって、大きく伸びた草が刈り込まれ、歩道に被るほどの歩道環境が変わりました。

この他多くの人々が、様々な場所で美化活動などに取り組まれたと思います。今回は児童や生徒の通学路という範囲の紹介にいたしました。

編集後記

内田小学校区小域福祉ネットワークは、平成二十二年に発足しました。

ネットワークの会議は、地域の方々(内田地区町会長・民生委員・更生保護女性会・子育て支援員・内田小学校校長等)が、「安全で安心して暮らせる、住みよい街づくり」を目標にして、いろいろな事業等を検討しております。この広報紙「うちだ」は、ネットワークの活動状況等をお知らせするものです。

「うちだ」の編集は、次の方々で行なっています。
小出完爾、御園生哲子、太田栄子、米山弘